

益田圏域地域医療構想調整会議 議事概要

【日時】令和3年12月6日(月) 19時30分～21時05分

【場所】益田合同庁舎 大会議室(テレビ会議併用)

【出席者】病院、医師会、歯科医師会、薬剤師会、訪問ステーション協会、老人福祉施設協議会、介護支援専門員協会、介護老人保健施設、社会福祉協議会、管内市町等

【議事内容】

- 1 地域医療構想の進捗状況について
- 2 地域医療拠点病院の申請について
- 3 医療・介護連携の状況について

【主な意見・協議結果について】

1について

○益田医師会病院は、R2年279床(うち、26床は休棟中)から、R3年10月より253床(急性期60床、回復期104床、慢性期89床)となっている。地域包括ケア病棟を2階に集約した。

○六日市病院は、今年度で六日市学園が閉校する関係で看護師が徐々に減少することが予想されることから、今後の病床機能について検討しているところである。また、併設する老人保健施設の定員を縮小して運用している。

2について

○津和野町と津和野共存病院院長より、地域医療拠点病院になる必要性等について説明され、部会委員からは異議なし。承認。

3について

1) 医療連携推進コーディネーターの活動報告

○医療連携推進コーディネーター配置事業としては、今年度末で終了予定。

取組概要を報告する。

○高齢者施設で看取りが徐々に増えている。

○「高齢者施設における看取りに関するアンケート」結果を参考に、高齢者施設での看取りを進める上で必要な支援に取り組んでいく。

支援の中でも、介護事業所への出前研修を充実させていく予定である。

<意見交換> テーマ; 終末期の過ごし方(看取り)について

看取りを進めていく中で、介護職員の経験、研修、心理的ケアへの支援が必要という声があがっており、不安な中で対応している。介護現場では、マンパワー不足。

介護職員にとって、多方面でのスキルが必要で、看取りがいつ訪れるかのプレッシャーの中で負担を感じている人もいる。在宅支援チームの中で医師、訪問看護師、嘱託医、施設看護師等の医療従事者がまだまだコミュニケーションをとらないといけない。情報共有や研修等、圏域が一丸となった取組になればよい。高齢者の生活を支える組織が横断的に情報共有、スキルアップしていく事など、課題が見つかった。

在宅では、往診の体制づくりが必要である。家族が不慣れで、訪問看護が尽力しても最後まで看取ることができず、119番搬送される。かかりつけ医、訪問看護、介護サービスなどが一丸となって家族の安心につながる声かけが必要である。

施設では、亡くなった後に連絡をして診断する場面が増えている。入所時に方向性を予め決めているが、それでも病院への搬送がある。施設と家族で協議した上で看取りに入る。自然な形で逝ってもらうよう努めている。夜にコールされて診察することが難しくなっている。そのことは、家族にも理解してもらっている。